

学生による地域活動についての報告

「城東じ・ば・子のおうちプロジェクト」と「ものみりよくプロジェクト」

The activity report of [JOTOH Ji-ba-ko-no-ouchi Project] and [Monomiryoku Project]

堀川 涼子^{*1}

Ryoko HORIKAWA

1. 自主ゼミの概要

早期から学生に学習意欲を高める動機づけとして、社会福祉学科では教員有志が自主ゼミを開講している。自主ゼミとは正規授業以外に、意欲のある学生を募り、開講しているゼミである。2011年からは地域福祉実践を体験させる仕掛けとして、単に学内での学びの場だけではなく、地域の福祉機関、関係団体等と連携をし、地域にフィールドを置いて実践活動を行っている。2015年1月現在、小坂田・堀川自主ゼミには4年生9名、3年生7名、2年生11名所属し、週1回の学習と、土日等を活用して地域活動を行っている。

2. 取り組みの内容

堀川研究室の自主ゼミ活動として、津山市内の街中の高齢化・過疎化が進む城東地区において、地区住民からなる「城東まちづくり協議会」の部会である「地域福祉事業部」へ「応援団体」として参加している。この応援団体には大学、行政・地域包括支援センター・社会福祉協議会が加わり、部会において協働して「観光だけではなく城東での地域づくり実践」を行っている。具体的にはこれまで「じいちゃん・ばあちゃん・子どもたち みんなの文化祭」として、地域の高齢者、子どもたち、その親、地域住民そして大学生の交流のイベントを3年行ってきた。その交流を年に一度のイベントでなく、常設できる「居場所づくり」に発展させ、城東の課題の一つである「空き家」を再利用した「じ・ば・子のおうち」の開設に取り組んだ。

学生は積極的に「地域福祉事業部」及び「じ・ば・子のおうち運営委員会」に参加し、「おうち」の運営企画、広報紙の作成、記録の作成、助成金獲得のプレゼンテーション、地域住民へのプレゼ

ンテーション、行事の企画、子どもの遊び相手等を行っている。2014年度は3年生7名が活動を行った。新たに今年度2年生を募集し、継続をしていく。

さらに小坂田研究室・堀川研究室の自主ゼミ活動として、津山市内のもう一つの高齢化・過疎化が急速に進む加茂町物見地区において、地区住民・地域包括支援センター・社会福祉協議会・市役所・美作大学(社会福祉学科教員・学生)からなる「ものみりよくプロジェクト」に参加し、中山間地域の地域福祉活動に取り組んでいる。4年生9名の学生は、プロジェクト会議にメンバーとして参加し、積極的に協議に加わるとともに、様々な地域福祉活動について提案している。たとえば、これまで地域内で行ってきた伝統行事「花まつり」について、事前準備の「餅つき」や「花作り」への協力をするとともに「花まつり」に参加したり、新たに提案を行い、地域住民の交流づくりとして「ものみり夏の交流会」を開催した。加えて地域実態把握と要援護者への支援体制づくりとして「支え合いマップの作成」「物見地区世帯票の作成」、先進的地区活動の研修として「香川県東かがわ市相生地区南野自治会視察」等に取り組んだ。また、空き家を借りての一泊二日の合宿も行った。

こうした取り組みを通して、学生たちは地域福祉の楽しみを知るとともに、実践力を高めていった。さらに2014年度は、次の代の「ものみりよくプロジェクト」活動の担い手として、2年生の自主ゼミ生11名の参加も進めた。

これら津山市内の対照的な「街中の過疎高齢化地域」と「中山間の過疎高齢化地域」の取り組みを通して、学生の地域福祉実践力を高め、「地域に根ざした社会福祉士」の育成を図っている。

*1 美作大学 社会福祉学科

3. 今後について

城東地区においては、2015年度にはこれまで取り組んできた「じ・ば・子のおうち」での活動を継続していくとともに、大学が借り上げた空き家を「城東じ・ば・子のうち『支縁（しえん）』」として整備していく。ここに5人～6人の学生が実際に城東地区に住み（シェアハウス）、住民として生活しながら日常生活の中で、地域の高齢者への支援（安否確認・話し相手・ゴミ出し・買い物など）を行うという新たな取り組みを行っていく予定である。

さらに、共有スペース（「じ・ば・子の茶の間」）を活用して、地域支援活動を行う。具体的には、認知症を対象とした交流活動「オレンジカフェ」（社会福祉学科）を行ったり、ゆくゆくは学科を超えて、放課後児童への教育や遊び支援「寺子屋しえん」（児童学科、幼児教育学科）、高齢者への栄養支援としての料理教室、栄養講座（食物学科、栄養学科）など、各学科の特長を生かした地域支援活動に取り組んでいきたいと思っている。

学生が3月に行った「じ・ば・子のおうちに関する住民アンケート」についても現在、運営員会で分析中である。

物見地区においても、2015年度も引き続き夏の交流会を継続することや、住民（特に高齢者）の介護予防活動や生きがいづくり活動に参加していくこととしている。また、福祉マップの活用や「懐かしの写真展」の開催など、新たな取り組みも企画しつつある。昨年度行った「ものみりよくプロジェクトへの意識調査」の分析を進め、地域の方とともに物見地区の活動をさらに進めたいと思っている。